

株主メモ

決算期	6月30日
定時株主総会	営業年度末日の翌日から3ヶ月以内
基準日	定時株主総会 6月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ 公告して定めた日
権利確定日	利益配当金 6月30日 中間配当金 12月31日
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	東京 (042)351-2211 大阪 (06)6833-4700
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞



PSSホームページをご利用ください!

当社の事業活動に関する報告・ニュースをタイムリーに掲載しています。是非ご覧ください。

URL <http://www.pss.co.jp>



第17期 中間事業報告書

平成13年7月1日～平成13年12月31日



プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

〒271-0064 千葉県松戸市上本郷88
 TEL:047-303-4800 FAX:047-303-4810
 お問い合わせメール:ir@pss.co.jp

人間の健康と幸福に貢献するバイオ産業の
トータル・システム・インテグレータ
PSS[Precision System Science Co.,Ltd.]



今、PSSの活躍が期待される分野は
限りなく広がっています

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第17期中間事業報告書(平成13年7月1日～平成13年12月31日)をお届けするにあたり、日頃の格別のご支援・ご理解に心より厚く御礼申し上げますとともに、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の経済環境は、米国経済の停滞や日本経済におけるデフレ不況の回復の兆しも見えない中、追い討ちをかけるように、米国同時多発テロや狂牛病問題発生など、極めて厳しい状況のうちに推移いたしました。

このような厳しい環境下、当社におきましては、引き続き、当社が一貫して目標としている臨床分野での応用を視野に入れた技術開発・製品化に積極的な投資を行いました。販売面におきましても、これまでのOEM販売に加え、直接販売にも力を入れて参りました。これら取組みは、今下半期以降の売上拡大につながるものと期待しております。また、株式の流動性向上を目的に、株式分割(1株を4株に分割、基準日平成13年12月31日)を実施いたしました。

しかしながら、開発製品の本格的な販売拡大にはまだ時間を要するため、当中間期の業績は、売上高516百万円、経常損失277百万円という厳しい結果となりました。株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、当中間期におきましては無配とさせていただきます。

当中間期の業績は厳しい結果となりましたが、当社の技術・システム構想は、バイオ産業のトータル・システム・ソリューションとして、ワールドワイドに浸透し得るものと確信しております。今後とも、さらなる開発努力・収益確保にまい進して参りたいと存じます。また当社は、当事業年度より連結ベースの決算を実施することとなり、グループ経営への本格的な一歩を踏み出しました。グループ丸となって事業推進に努め、株主の皆様のご期待にお応えして参りますので、今後とも一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年2月



代表取締役社長
田島秀二

2001年、PSSはナスダック・ジャパン上場資金をもとに、事業基盤のフレームワークを構築しました。

Main Events of 2001

2001年

2月 ナスダック・ジャパン上場...約16億円の資金調達

4月 新社屋の完成（千葉県松戸市上本郷）

7月 海外現地法人3社の設立

7月 新型DNAチップ「Bio-Strand」の発表

8月 「ハイスループット多目的対応型システム」の発表

10月 「超小型自動核酸抽出装置」の発表

12月 株式分割（1:4）実施

12月 ISO9001 最終審査終了(2002年3月認定予定)



MAGTRATION® Systemの多機種化

バイオ研究者を煩雑な手作業から解放し、研究開発環境を大幅に改善する画期的なシステムを目的に多機種化！



超小型自動核酸抽出装置
(2002年内に販売予定)



大容量自動核酸抽出装置
(2002年内に販売予定)



ハイスループット
多目的対応型システム
(販売中)

新たな検出技術の開発



既存の平面状DNAチップが抱えている技術上の問題を解決する、3次元構造の新型DNAチップです。この他、当社では、磁性体粒子にあかもバーコードのような役割をもたせたビーズ状DNAチップ「蛍光バーコードビーズ」も開発しています。

— PSSの基幹技術MAGTRATION® Technology —

MAGTRATION® Technologyとは「Magnetic Filtration」を縮めた造語で、磁石により振り分けることを意味します。3つの要素、即ち磁性体粒子、磁石および高精度分注機で構成される非常にシンプルな仕組みです。基本原理は、磁性体粒子で目的物質を捕獲し、これを磁石と分注機で制御するというものです。

このシンプルな独自技術により、従来の手作業や他社装置では困難であった、自動化および医療現場での利用にも耐える高純度抽出が可能となりました。

*MAGTRATION® は、世界10数カ国に特許出願・登録を行っているPSSの商標登録です。
(日本Patent: No.3115501, 米国Patent: No.5,702,950 欧州Patent: No.687501)



事業基盤を構築した今、PSSは一貫して
目標としてきた遺伝子解析における「**実用臨床装置**」の開発にチャレンジします！

PSSの臨床分野へのチャレンジ

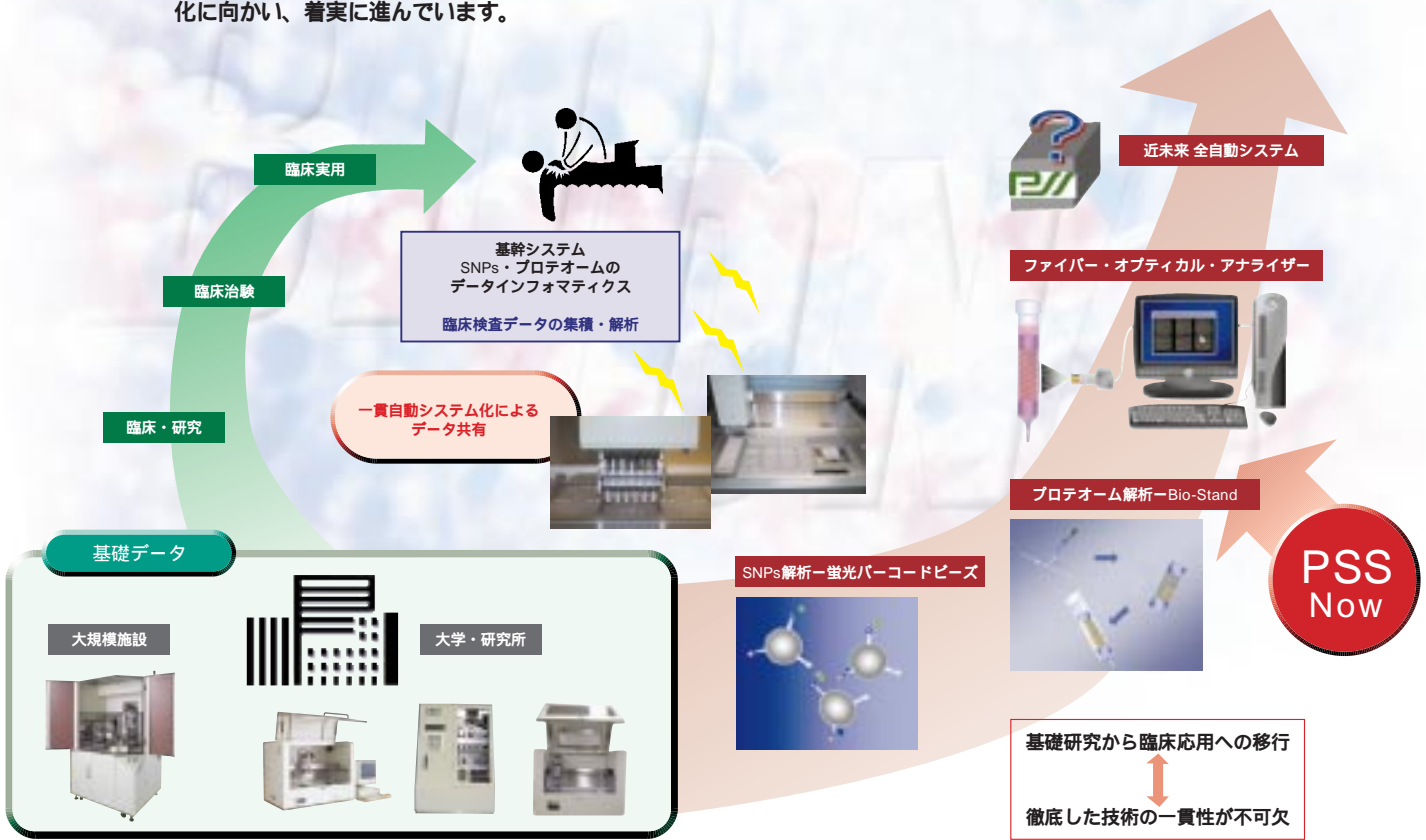
現在、日進月歩のバイオ産業では、まさに百花繚乱しかし、実用性のある、本当に人類の発展に寄与するといえるでしょう。

現在のバイオ産業は、ようやく、臨床の前段階だったところであり、この段階から臨床への応用、移行
当社では、創業以来培ってきた「一貫した技術体系」化に向かい、着実に進んでいます。

のごとく、様々な技術が研究・開発されています。る技術として生き残っていくものは、ほんの一握り

あるDNA構造・機能解析等の基礎分野の構築に至が、今後のバイオ産業の課題となっています。

のもと、来る臨床の時代に通用するシステムの実現



1. 当中間期の概況

当中間期のわが国経済は、景気回復への動きを牽引していた輸出や設備投資が減少に転じる中で、米国経済の停滞や構造改革に伴う雇用不安なども重なり、デフレ不況回復の兆しも見えない中、非常に厳しい状況で推移いたしました。

こうした状況の下、今後の発展が期待される遺伝子関連業界においては、まさに百花繚乱のごとく、様々な技術が開発・研究されております。現在のバイオ産業は、ようやく、臨床の前段階であるDNA構造・機能解析などの基礎分野の構築に至りましたが、今後は、この段階から臨床分野への応用・移行が課題となってくるものと思われまます。

さて、当社グループにおきましては、平成13年7月に海外100%子会社3社を設立し、本格的なグローバル展開を実施するための体制作りを行いました。また、研究開発の成果として、DNA自動抽出装置の新機種の製品化を実現し、品揃えの強化を行いました。更に、今後の研究開発と営業活動の強化を目的とした人材確保も実施いたしました。

しかしながら、こういった活動が業績に貢献するには、今しばらくの時間が必要であり、当中間期の連結の売上高は516百万円の計上に留まりました。一方で、上記施策の実施に伴い、開発費、人件費、展示会などの費用負担が大きく影響し、経常損失277百万円となりました。また、不要となった旧本社社屋を売却したことに伴い、特別損失が発生したことから、中間純損失319百万円となりました。

各製品別の販売状況は、以下のとおりであります。

DNA自動抽出装置

当中間期は、75台の販売実績で売上高279百万円となりました。当中間期においては、海外OEM製品が落ち込んだことから減収を余儀なくされましたが、個別OEM先の事情による一時的なものであり、既に下半期の受注は確保されていることから、特段の懸念はないものと考えております。

その他理化学機器

特注の分注装置の販売を中心に売上高46百万円となりました。単体の前年同期に関しては、NEDO(注1)からJBIC(注2)を通じた委託開発事業の売上が寄与しておりましたが、今年度はこれらの委託事業を行っておりませんので減収となりました。これらは研究開発活動の一環として手掛けているものであり、薄利であるため収益への影響はほとんどありません。

(注1) NEDO・・・新エネルギー・産業技術総合開発機構

(注2) JBIC・・・財団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

その他製品

自社加工の消耗品および装置メンテナンスを中心に売上高69百万円となりました。利幅の薄い一部のプラスチック消耗品(一般の消耗品)に関しては、平成13年1月より取扱いを中止したため、単体の前年同期より減収となりました。今後は、DNA自動抽出装置に関連した消耗品の販売や装置メンテナンス活動により、この影響を十分にカバーできるものと考えております。

商品(プラスチック消耗品)

商品のプラスチック消耗品は、売上高121百万円となりました。一昨年からDNA自動抽出装置の新規OEM製品の販売に伴って、当セグメントは順調に売上が増加してまいりましたが、当中間期に関しては、在庫調整の影響を受けました。特にRoche社およびGenovision社などの海外向け消耗品が落ち込みました。しかし、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、今後に関しては特段の懸念はないものと考えております。

2. キャッシュ・フローの状況

当中間期のキャッシュ・フローにつきましては、以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、上記のとおり、開発費、人件費、展示会費用などの負担増加により、税金等調整前中間純損失が318百万円発生しましたが、この中には、旧本社社屋の売却に伴う特別損失39百万円が含まれていること等により、キャッシュ・フローとしては266百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、研究開発設備を充実したため有形固定資産への投資支出62百万円等があった一方で、旧本社社屋の売却により85百万円の収入等があり、20百万円の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入れの実行により純額で329百万円の増加となりました。

以上の結果として、換算差額14百万円を加算して、現金及び現金同等物は97百万円増加し、その中間期末残高は1,112百万円となりました。

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科 目	当中間連結会計期間末 平成13年12月31日現在
(資産の部)	
流動資産	1,826,164
現金及び預金	1,083,897
受取手形及び売掛金	305,208
有価証券	100,030
たな卸資産	295,928
その他	41,251
貸倒引当金	151
固定資産	909,874
有形固定資産	864,546
建物及び構築物	262,905
土地	431,250
その他	170,389
無形固定資産	1,718
投資その他の資産	43,609
資産合計	2,736,038
(負債の部)	
流動負債	940,718
買掛金	159,226
短期借入金	590,000
一年内返済予定の長期借入金	147,990
賞与引当金	2,459
その他	41,041
固定負債	680,076
長期借入金	680,076
負債合計	1,620,795
(資本の部)	
資本金	862,003
資本準備金	1,328,025
欠損金	1,090,175
為替換算調整勘定	15,389
資本合計	1,115,243
負債、少数株主持分及び資本合計	2,736,038

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	当中間連結会計期間 (自平成13年7月1日 至平成13年12月31日)
売上高	516,995
売上原価	353,778
売上総利益	163,216
販売費及び一般管理費	434,282
営業損失	271,065
営業外収益	8,953
受取利息	5,403
保険解約返戻金	2,285
その他	1,263
営業外費用	15,483
支払利息	13,325
その他	2,158
経常損失	277,596
特別損失	40,645
旧日本社屋売却損	39,473
固定資産除却損	633
投資有価証券評価損	539
税金等調整前中間純損失	318,242
法人税、住民税及び事業税	1,461
中間純損失	319,704

中間連結キャッシュ・フロ - 計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	当中間連結会計期間 (自平成13年7月1日 至平成13年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	266,599
投資活動によるキャッシュ・フロー	20,126
財務活動によるキャッシュ・フロー	329,558
現金及び現金同等物に係る換算差額	14,911
現金及び現金同等物の増加額	97,996
現金及び現金同等物の期首残高	1,014,457
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,112,454

中間単体貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

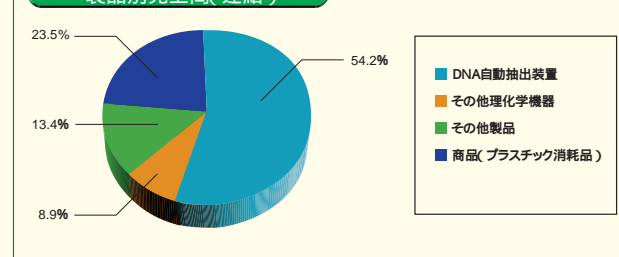
科 目	前中間期	当中間期	前期末
	平成12年12月31日現在	平成13年12月31日現在	平成13年6月30日現在
(資産の部)			
流動資産	944,746	1,549,951	1,744,385
現金及び預金	413,419	813,875	1,082,183
受取手形	3,941	30,465	48,686
売掛金	213,282	274,722	287,699
たな卸資産	275,988	295,752	265,998
その他	38,195	135,286	59,909
貸倒引当金	81	151	92
固定資産	928,232	1,228,346	970,002
有形固定資産	862,338	816,064	923,339
建物及び構築物	282,119	262,905	327,196
土地	493,916	431,250	497,447
その他	86,300	121,907	98,694
無形固定資産	1,203	1,220	1,152
投資その他の資産	64,690	411,061	45,510
子会社株式	—	262,213	—
その他	64,690	148,847	45,510
繰延資産	119	—	—
資産合計	1,873,098	2,778,297	2,714,388
(負債の部)			
流動負債	904,499	936,456	396,664
買掛金	104,712	158,238	161,339
短期借入金	595,333	590,000	66,000
一年内返済予定の長期借入金	128,646	147,990	124,545
一年内償還予定の新株引受権付社債	28,750	—	—
賞与引当金	2,020	2,459	2,020
その他	45,036	37,767	42,758
固定負債	967,497	680,076	898,048
新株引受権付社債	10,000	—	—
長期借入金	957,497	680,076	897,963
繰延税金負債	—	—	84
負債合計	1,871,997	1,616,533	1,294,712
(資本の部)			
資本金	309,503	862,003	862,003
資本準備金	270,525	1,328,025	1,328,025
欠損金	578,927	1,028,265	770,470
中間(当期)未処理損失	578,927	1,028,265	770,470
その他有価証券評価差額金	—	—	118
資本合計	1,101	1,161,763	1,419,676
負債資本合計	1,873,098	2,778,297	2,714,388

中間単体損益計算書(要旨)

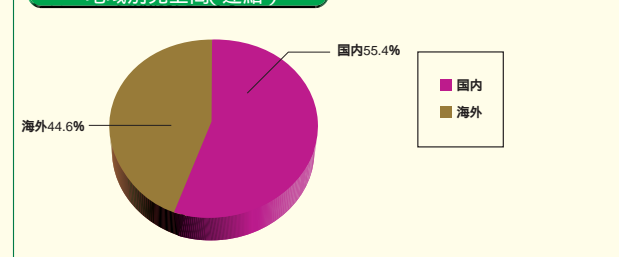
(単位：千円)

科 目	前中間期	当中間期	前期末
	自平成12年7月1日 至平成12年12月31日	自平成13年7月1日 至平成13年12月31日	自平成12年7月1日 至平成13年6月30日
売上高	739,162	517,038	1,643,695
売上原価	561,213	353,813	1,261,504
売上総利益	177,948	163,224	382,191
販売費及び一般管理費	263,932	368,398	621,374
営業損失	85,984	205,173	239,183
営業外収益	8,011	4,966	9,992
営業外費用	20,126	15,479	58,041
経常損失	98,099	215,686	287,232
特別利益	198	—	202
特別損失	—	40,645	—
税引前中間(当期)純損失	97,900	256,332	287,029
法人税、住民税及び事業税	435	1,461	2,850
法人税等調整額	2,188	—	2,188
中間(当期)純損失	100,523	257,794	292,067
前期繰越損失	478,403	770,470	478,403
中間(当期)未処理損失	578,927	1,028,265	770,470

製品別売上高(連結)



地域別売上高(連結)



会社概要 (平成13年12月末現在)

商号 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
(英文社名) Precision System Science Co., Ltd.

設立年月日 1985年7月17日

役員
代表取締役社長 田島 秀二
常務取締役 小幡 公道
常務取締役 高橋 達雄
取締役 高橋 正明
取締役 長岡 信夫
取締役 中島 保泉
取締役 秋本 淳
監査役 松野 卓也
監査役 箕 悦夫
監査役 鈴木 啓靖

資本金 862百万円

従業員数 55名(海外子会社役員、パートを含む)

連結子会社 PSS BiO Instruments, Inc.(USA)
Bio Strand, Inc.(USA)
Precision System Science Europe GmbH
(Germany)

事業内容 遺伝子・プロテオーム解析関連業界における研究開発やその研究成果の実用化に用いられる自動化装置、その他理化学機器、ソフトウェア等の開発および製造販売、ならびに自動化装置に使用されるプラスチック消耗品の製造販売

株式の状況 (平成13年12月末現在)

会社が発行する株式の総数 33,496株
発行済株式の総数 8,374株

1. 平成14年2月20日付をもって、1株につき4株の割合で株式分割を行い、発行済株式の総数は25,122株増加しております。

株主数 1,967名

大株主

株主名	持株数	持株比率
	株	%
田島秀二	2,672	31.91
有限会社ユニテック	750	8.96
投資事業組合YNED	214	2.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	183	2.19
富士銀キャピタル株式会社	100	1.19
ジャフコ・ジェイエス-2号投資事業組合	95	1.13
株式会社ジャフコ	94	1.12
ジャフコ・アール2号投資事業組合	82	0.98
プレシジョン・システム・サイエンス従業員持株会	69	0.82
三菱信託銀行株式会社(信託口)	67	0.80

所有者別株式分布表

